慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	天台宗讀本(硲慈弘著, 天台宗務廳發行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.18, No.1 (1939. 9) ,p.185- 185
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0185

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

天台宗讀本（硲慈弘著　天台宗務廳發行）

本書は主として宗門學生に日本天台宗史の大綱を示す爲めに平明に敍述せられたもので、往々著者獨自の研究に基くもの一二に止まらず、又朝鮮半島に於ける傳流變遷の一節は著者より初めて試みられたものであらう。

本書は章を分ち、先づ上來支那に於ける天台智者大師の開宗より發展の大要を始めとし、半島に東漸して新羅より高麗に傳流變遷の跡を尋ね、我が國に於ける發達變遷に就いては詳述し、我が國天台宗の獨立興隆は傳敎大師に據るも、其の素地と萠芽は既に奈良朝時代に求められ、大師入唐求法の後は、其の敎義思想は日本化され前代の都市佛敎に對して山林佛敎として敎界革新の意義を有し、且つ中世の新宗生誕の母胎ともなり、我佛敎史上に特殊の地位と意義とを持つてゐる。然し爾後、時勢の變遷につれて、宗勢は一盛一衰の運に乘じ、別派の分流ともなり、山法師の跳梁ともなり、興頽消長を重ねた。就中、慈慧大師の出づるに及んで、祖風は振作し山家の敎風も亦一時振興し、信長による元龜の大厄難に遭遇し、祖山一時全く滅亡の姿となり、又秀吉の助緣を得て忽ち復舊し、天海僧正の出づるに至り、大いに祖道を恢宏し、所謂る武家佛敎に冠たる地位を占め、又東叡山寛永寺の創建となり、輪王寺門主の奉迎となり、日光東叡・比叡の三山及び全天台宗を管領し、宗政の一途悉く管領の宮より出で、一宗の敎權東遷するに至つた。次いで維新の排佛毀釋の禍を蒙りしも、後、大いに覺醒する處あり、再び宗門の秩序回復し、敎學恢弘せられて今日に及び、益々山家の宗風宣揚し、祖道復古の精神作興に力めて居る。

本書は初心者の指南の良書であり、又新なる天台宗研究者の參考の好書である。筆者の如く宗史に暗き者には種々啓發せられるところがあつた。終に當今興亞の聖戰に際會し、天台宗の盛時を顧みて、大師一代の大標幢であつた鎭護國家の爲め大修法を勤行し、併せて皇軍の武運長久を祈修せられむことを切望すると共に著者の研究に對して深甚の敬意を表するものである。

（十四、八、十六、武田勝藏）